

情報革命で人々を幸せに



2022年12月

ソフトバンクグループ株式会社(東証1部 9984)

## 免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社(以下「SBG」)及びその子会社(Arm Limitedを含み、以下SBGと併せて「当社」)並びに関連会社(以下当社と併せて「当社グループ」)に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績を保証するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBGの重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SBファンド(下記で別途定義)並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBGのホームページの「事業等のリスク」([https://group.softbank/ir/investors/management\\_policy/risk\\_factor](https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor))をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依拠してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測若しくは予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業(SBファンドの投資先を含みますが、これに限られません。)に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

本資料には、Arm Limitedに関する記述が含まれています。これらの記述は、SBGの株主への情報提供のみを目的としたものであり、Arm Limitedが発行するあらゆる有価証券の販売又は購入の勧誘を目的としたものではありませんし、そのように解釈されるべきではありません。

## 商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

## 重要なお知らせ—SBGの普通株式の取引、スポンサーなしADR(米国預託証券)に関する免責事項

SBGの普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBGの開示は、スポンサーなしADR(以下「ADR」)の取引の促進を意図するものではなく、ADRの取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBGは、SBGの普通株式に関するスポンサーなしADRプログラムの設立又はそれに基づき発行されるADRの発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBGは、ADR保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBGが1934年米国証券取引所法(以下「証券取引所法」)で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBGのホームページに、SBGが証券取引所法ルール12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づくSBGの普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG及び当社グループは、SBGの普通株式を表象するスポンサーなしADRに関連して、ADR保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社やZホールディングス株式会社などの、スポンサーなしADRプログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

## 本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又はSB Global Advisers Limited(以下「SBGA」)、SB Investment Advisers (UK) Limited(以下「SBIA」)及びそれらの関係会社を含むSBGの子会社(以下併せて「SBファンド運用会社」)により運用されるいずれかのファンド(文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SBファンド」)のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SBファンドは、他のファンド同様、SBIAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド1」)、SBGAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund II-2 L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド2」)及びSBGAとその関係会社によって運用されているSBLA Latin America Fund LLC (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」)を含みます。

SBファンド(ビジョン・ファンド1及びビジョン・ファンド2並びにラテンアメリカ・ファンドを含む)、SBファンド運用会社、SBファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるとかかわらずこれを表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報はSBファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又はSBファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SBファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連するSBファンド、本資料に言及されるその他のファンド又はSBファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SBファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連するSBファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SBファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連するSBファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載されるSBファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連するSBファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因(例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。)に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連するSBファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつか要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連するSBファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SBファンド又はSBファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各SBファンド又は関連するSBファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びバンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SBファンド運用会社、SBファンドのポートフォリオ会社、SBファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又はSBGが、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA及びSBIAは、ビジョン・ファンド1、ビジョン・ファンド2及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互にSBGからそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA又はSBIAによって運用されるSBファンドは、それぞれSBGA単独又はSBIA単独で運用されています。

1

会社概要・FY22上期業績

2

「守り」の実行

3

SoftBank Vision Fund

4

既存ポートフォリオの状況

5

財務戦略

6

サステナビリティ

# 会社概要

(2022年3月末)

商号	ソフトバンクグループ株式会社
設立年月日	1981年9月3日
本社所在地	東京都港区海岸1-7-1
代表取締役 会長兼社長執行役員	孫 正義
証券コード	東証プライム市場(9984)
単元株式数	100株
年間配当予定額	1株当たり44円 (中間22円、期末22年予定)

株価 5,952円

時価総額 10.3兆円

格付(長期発行体格付)

日本格付研究所  
(JCR) A-

S&P BB+

※ 株価および時価総額:2022年11月30日終値を使用。





## 情報革命で人々を幸せに



# ソフトバンクの事業変遷ーグローバルな投資持株会社に

変わらぬビジョン:「情報革命で人々を幸せに」

事業会社

投資持株会社

孫正義がソフトバンクを  
立ち上げ。名前の由来  
は「ソフトウェアの銀行」



PCソフトの卸売業  
1981年創業



パソコン時代の  
到来

1996年:ヤフー事業開始  
2000年:アリババへの投資



インターネット・ブロードバンド事業  
1996年～2005年



日本のブロードバンドの  
普及をサポート

2001年:Yahoo! BB  
ADSL事業開始  
2004年:日本テレコム買収



2005年:  
ホークス買収



2008年:  
iPhone発売  
(日本初)

2006年:  
ボーダフォン  
ジャパン買収



モバイルブロードバンド  
2006年～2014年



モバイル事業を通じて  
生活を豊かに

2014年:  
アリババグルー  
プ上場



2013年:  
米国スプリント  
買収



2016年:  
英国半導体設計大手  
アーム買収



2018年:  
SBKK上場



2020年: スプリント、  
T-モバイルと合併



2017年:SVF1始動  
2019年:SVF2始動



Data and AI  
2015年以降



AI革命の  
実現に向けて

# 事業セグメントおよびグループ企業

幅広い業種・地域に展開する企業群

2022年3月末現在  
★印は上場企業



★  
 Alibaba Group  
阿里巴巴集团  
(中国でのEC)

★  
 T-Mobile  
(ドイツテレコム)

★  
 T-Mobile  
(米国や欧州での通信事業)

ファンドによる投資先例

ByteDance  
(TikTokの運営等)

★  
 coupang  
(韓国でのEC)

★  
 Fanatics  
(スポーツ用品専門EC)

★  
 SoftBank<sub>KK</sub>

★  
Z HOLDINGS

YAHOO!  
JAPAN

LINE

★  
 ZOZO

★  
 ASKUL

arm  
(半導体設計)  
上場に向け準備中

PayPay

SoftBank  
HAWKS  
FUKUOKA

PayPayは22年10月1日付でソフトバンク㈱の子会社となったことにより、FY22Q3以降「ソフトバンク事業」に含めて表示

ソフトバンクグループ = 情報革命の資本家

SVF等を通じて世界の  
ユニコーン企業に投資

アームのさらなる成長と  
エコシステムの確立



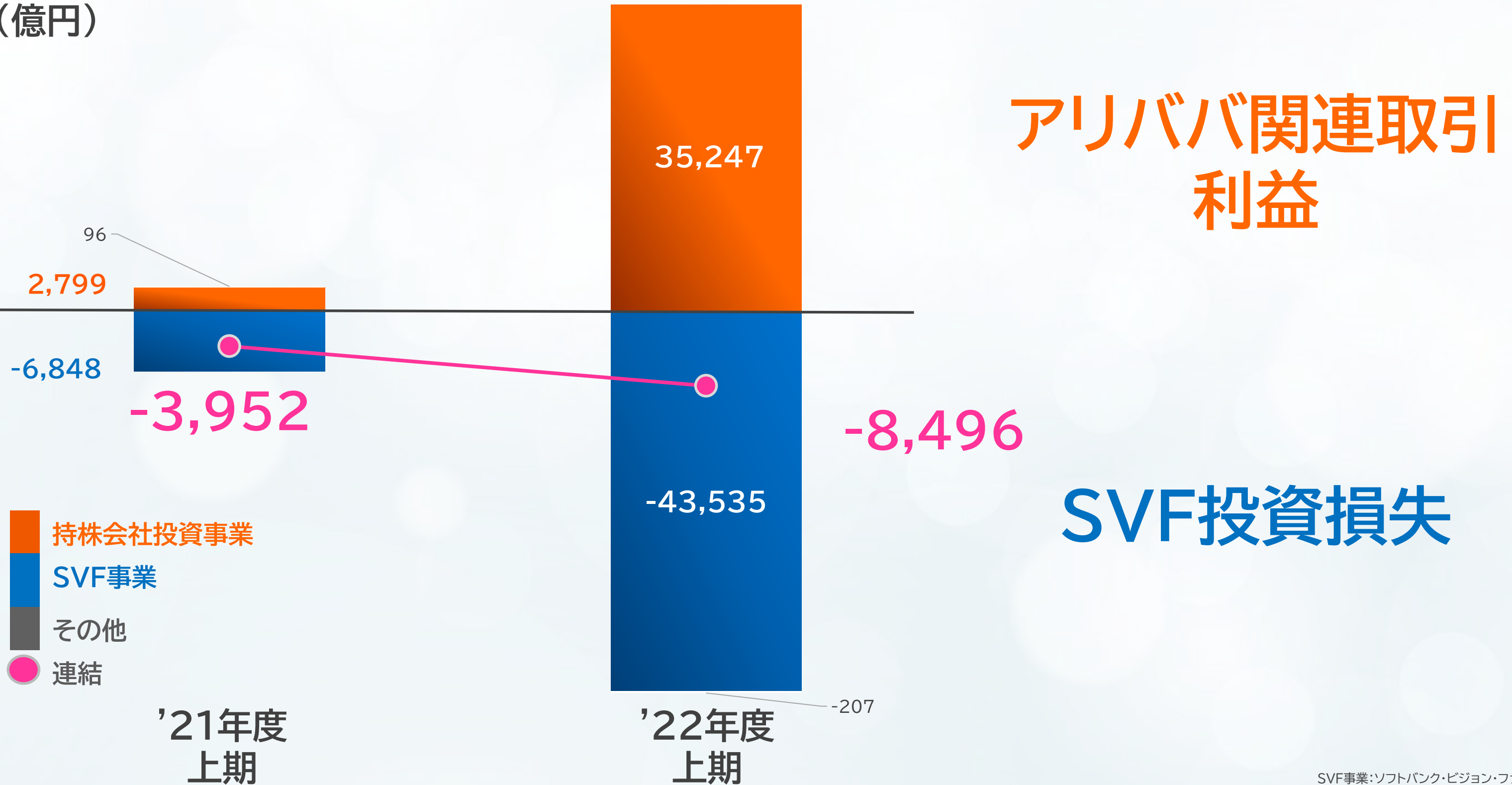
# 連結業績の状況

(億円)

	'21年度 上期	'22年度 上期	増減額
売上高	29,835	31,825	+1,990
投資損益	-3,952	-8,496	-4,544
税引前利益	10,470	2,926	-7,543
純利益	3,636	-1,291	-4,927

# 投資損益

(億円)



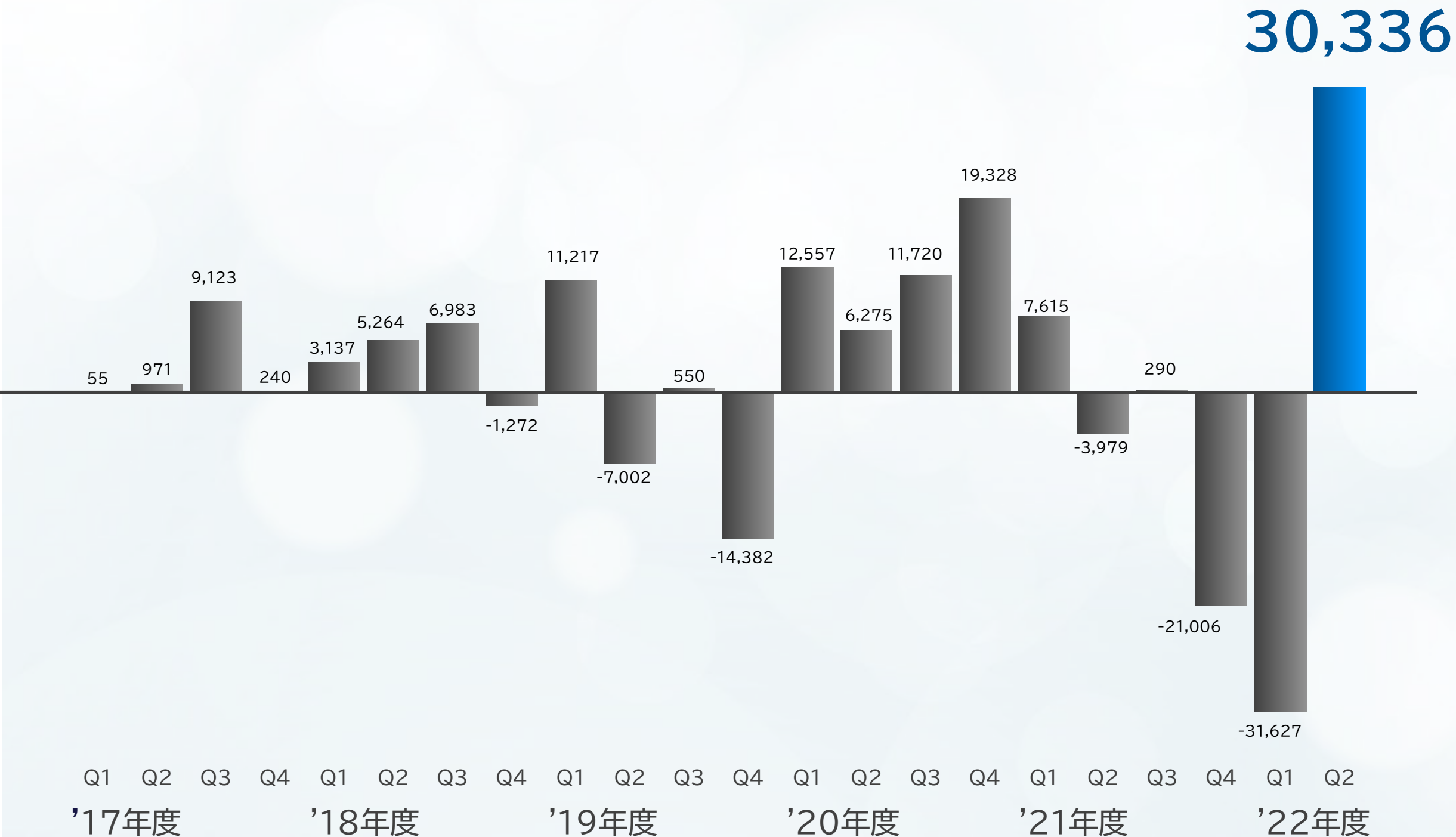
# 税引前利益 (セグメント別)

(億円)

	'21年度 上期	'22年度 上期	増減額
持株会社投資事業	10,156	32,623	+22,467
SVF事業	-4,012	-33,507	-29,495
ソフトバンク事業	5,321	4,293	-1,028
アーム事業	340	356	+16
その他・調整額	-1,335	-839	+496
連結	10,470	2,926	-7,543

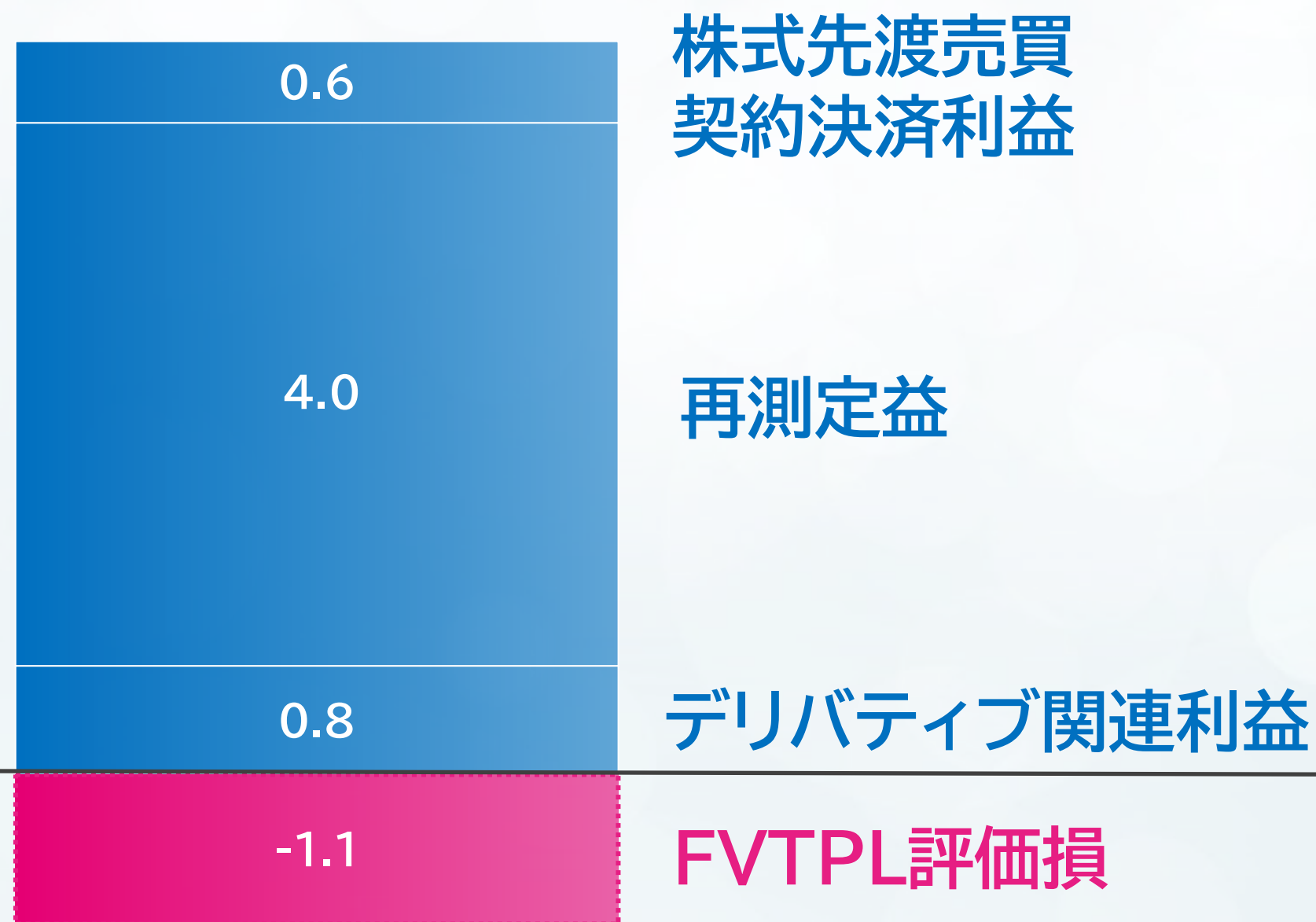
# 純利益 (四半期)

(億円)



# アリババ関連取引の影響

(兆円)



連結業績  
影響額

合計4.3兆円

アリババ関連取引による連結業績影響額:以下(a)と(b)の合計  
(a) 2022年8月~9月にかけて実施した、アリババ株式を利用した先渡売買契約のうち242百万ADR(米国預託証券)を対象とした契約を早期現物決済したことに伴う利益(+5.4兆円)  
(b) 引き続き保有するアリババ株式に係る投資の未実現評価損失(-1.1兆円)

## NAVへの影響

NAVの増加

+2.9兆円

## 会計への影響

資本の増加

+2.6兆円

連結純利益

-1.1兆円

円安はNAVと資本にプラスの影響

# NAVの推移

3月末からは1.8兆円減少



# NAV

(兆円)

保有株式価値

23.2

純負債

4.7

NAV

18.5

19.7

3.0

16.7

'22年3月末

'22年9月末

NAVは  
3月末比  
1.8兆円減少

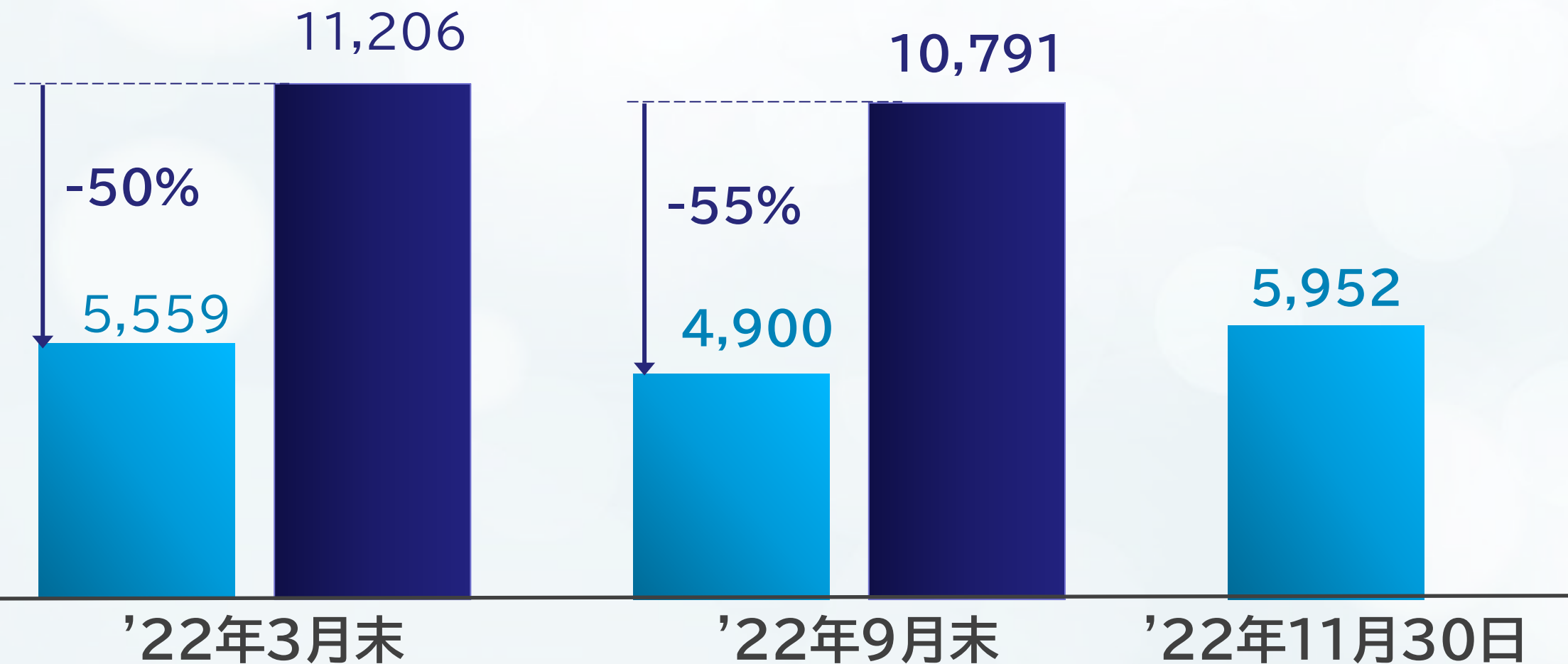


# 1株当たりNAVと株価

(円)

■ 株価

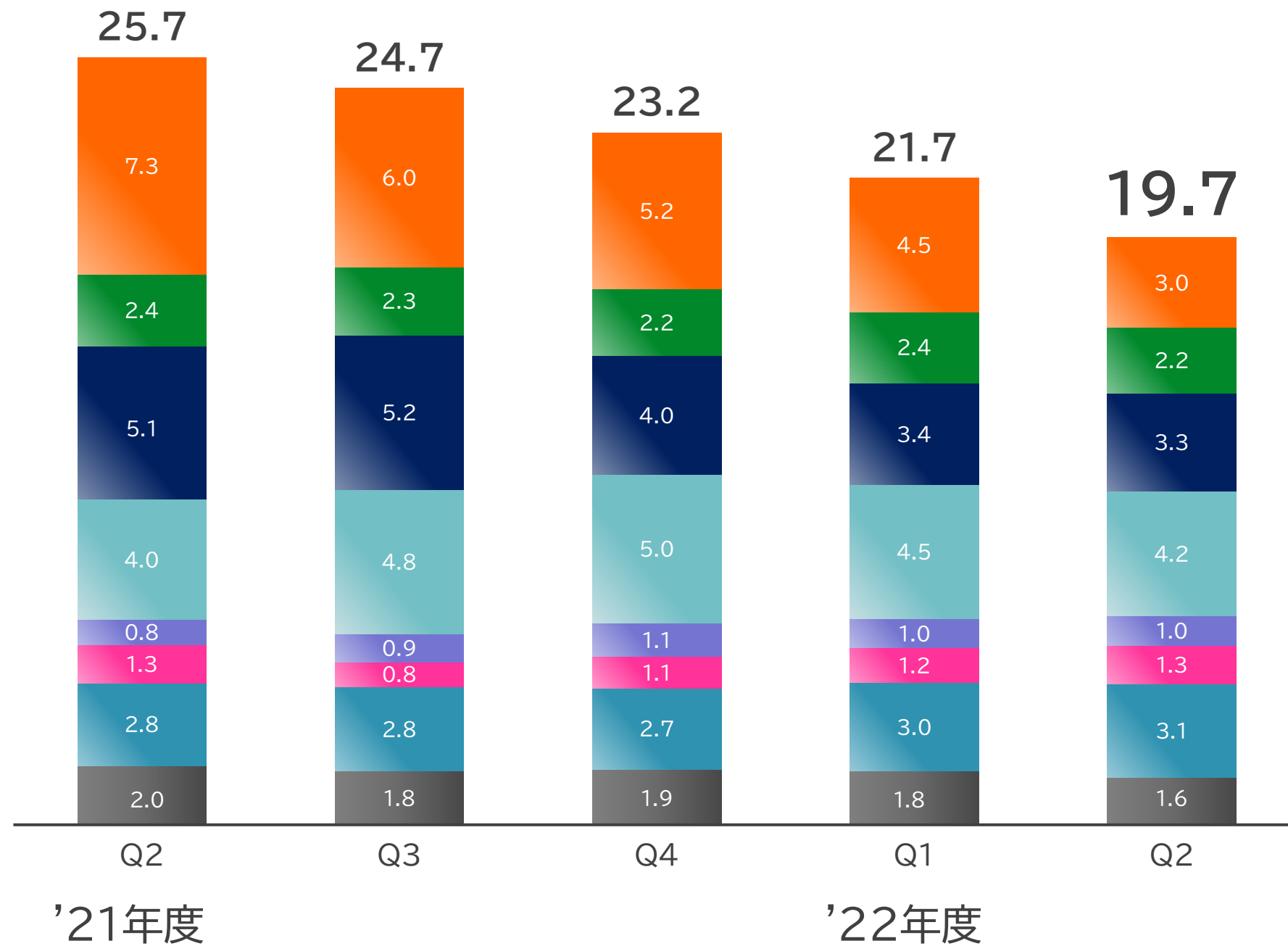
■ 1株当たりNAV



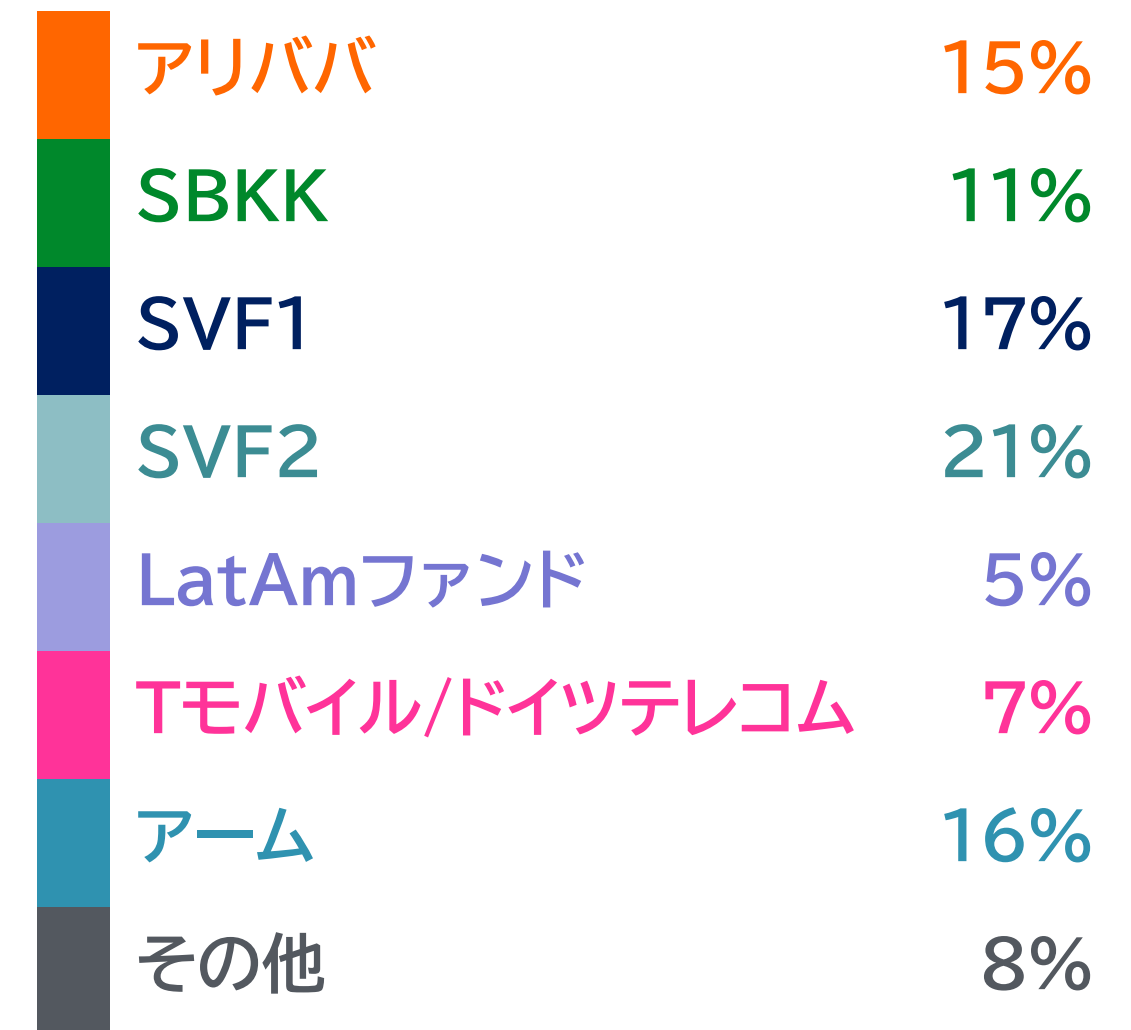
# 保有株式価値

(兆円)

アセットバック・ファイナンス除く



構成比('22年9月末時点)

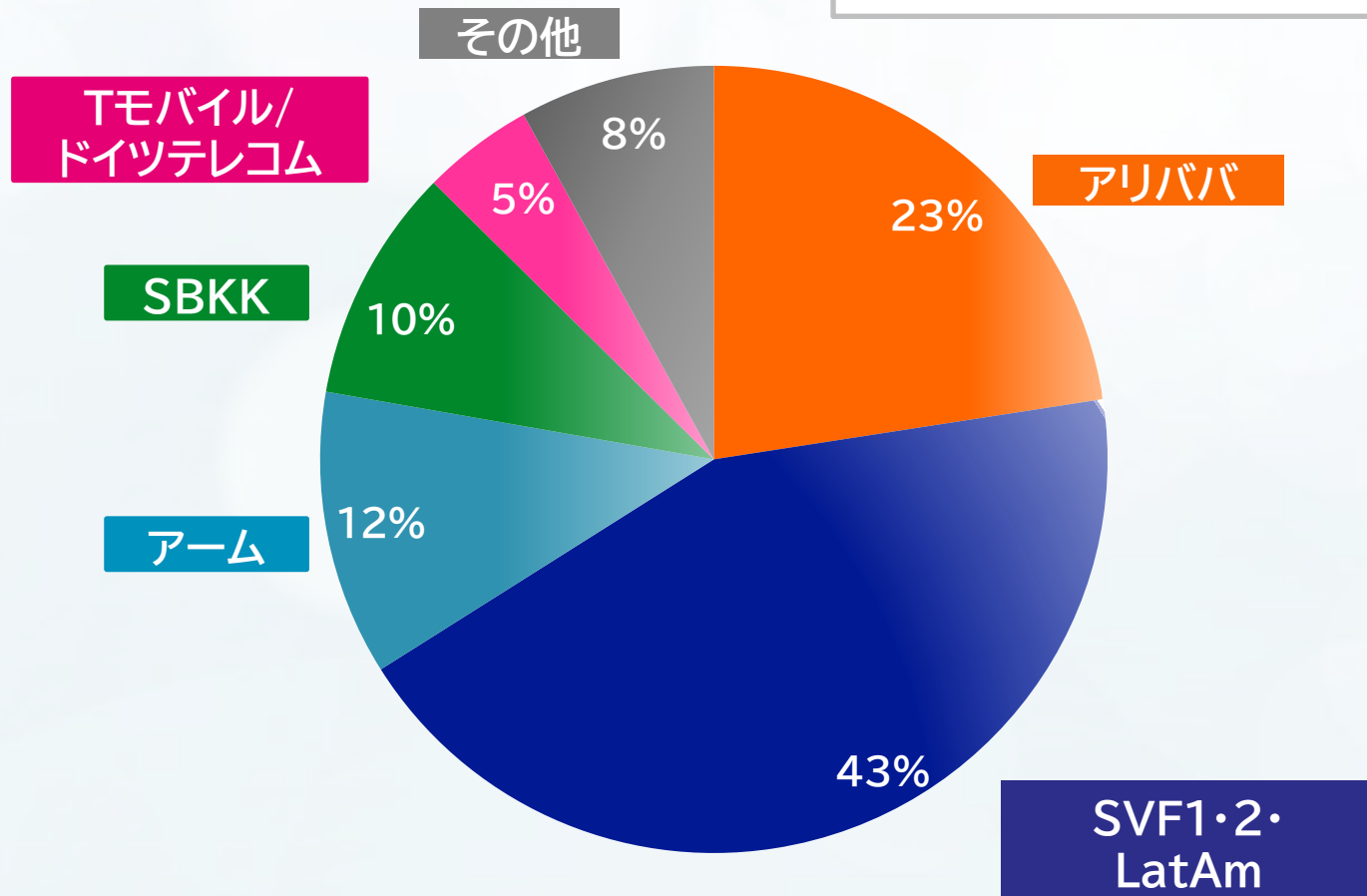


# 保有株式価値：ポートフォリオの分散

アセットバック・ファイナンス除く

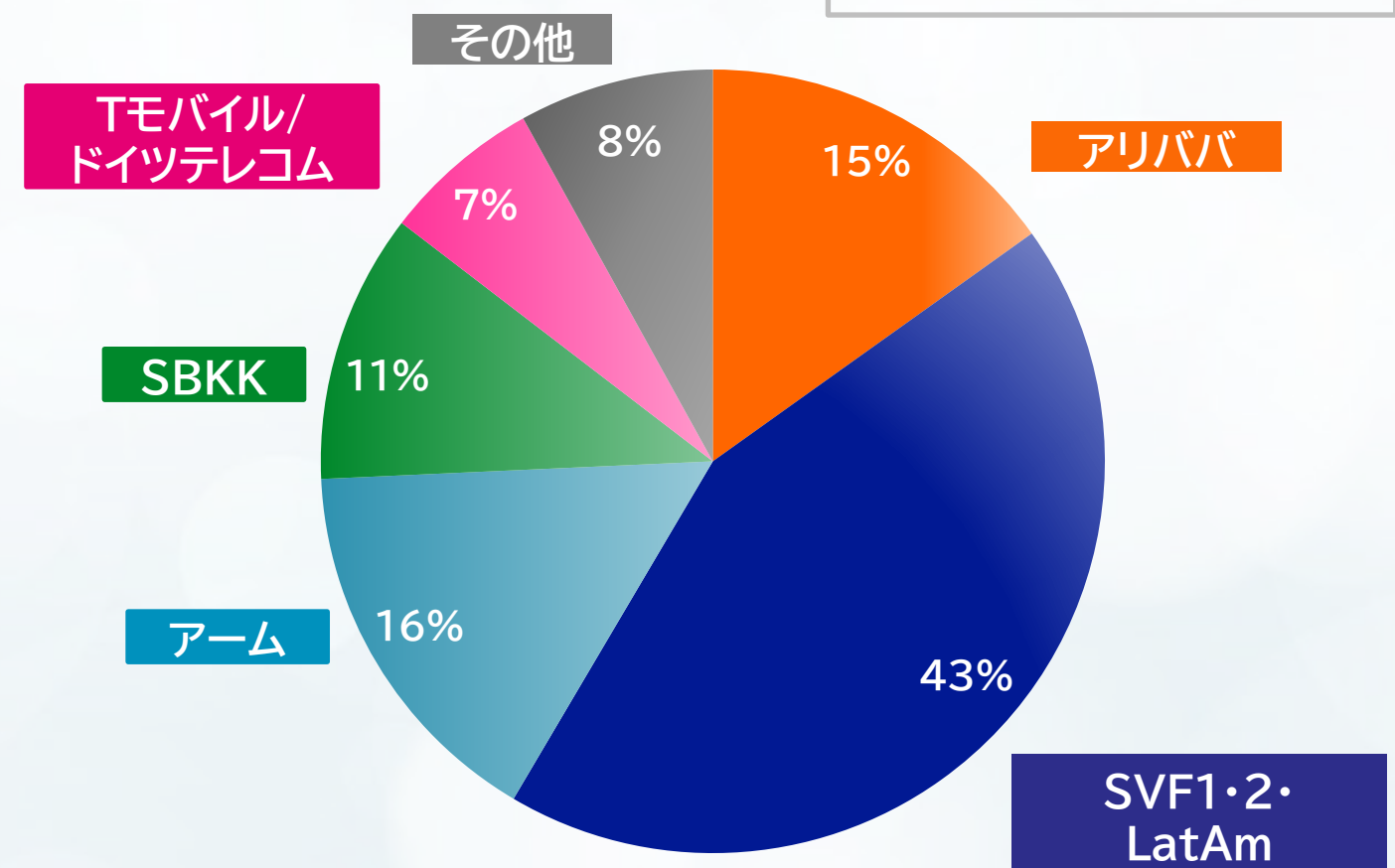
'22年3月末

上場株式の割合  
(アセットバック・ファイナンス控除後)  
52%



'22年9月末

上場株式の割合  
(アセットバック・ファイナンス控除後)  
44%



保有株式価値の詳細は、当社IR資料を参照  
上場株式の割合：アリババ、SVF1・SVF2・LatAmファンドが保有する上場株式、SBKK、Tモバイル、ドイツテレコム、およびその他のうちの上場株式を含む(ただし、SVF1、SVF2およびLatAmファンドはSBGの持分のみを含む)。  
(i) '22年9月末時点のSBGの保有株式価値のうち上場株式価値の占める割合(アセットバック・ファイナンス控除後)と、(ii)アームの上場準備状況を踏まえた、'22年9月末時点のSBGのアーム保有株式価値(アセットバック・ファイナンス控除後)を合計すると60%となります。アームは既に上場準備の開始を発表していますが、上場の時期、上場後のアームおよびSBGのアーム保有株式価値については未定であり、これらについて何らの保証または示唆を与えるものではありません。SBGのアーム保有株式価値の詳細は、当社IR資料を参照

1

会社概要・FY22上期業績

2

「守り」の実行

3

SoftBank Vision Fund

4

既存ポートフォリオの状況

5

財務戦略

6

サステナビリティ

# 「守り」の実行と還元

NAV  
16.7兆円

LTV  
15.0%

手元流動性  
4.3兆円

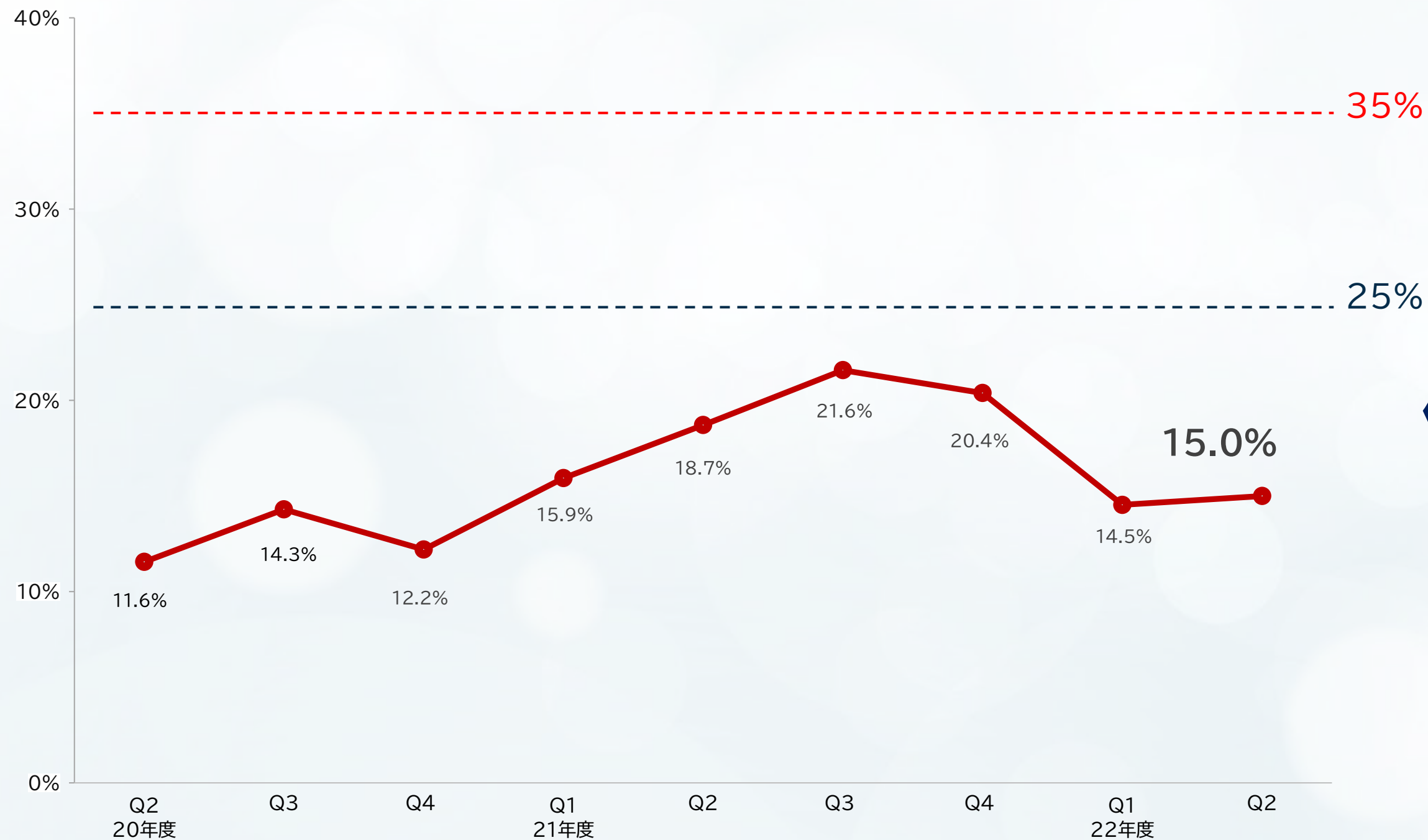
(’22年9月末時点)

**債権者**  
有利子負債の返済

**株主**  
自社株買い

# LTVの推移

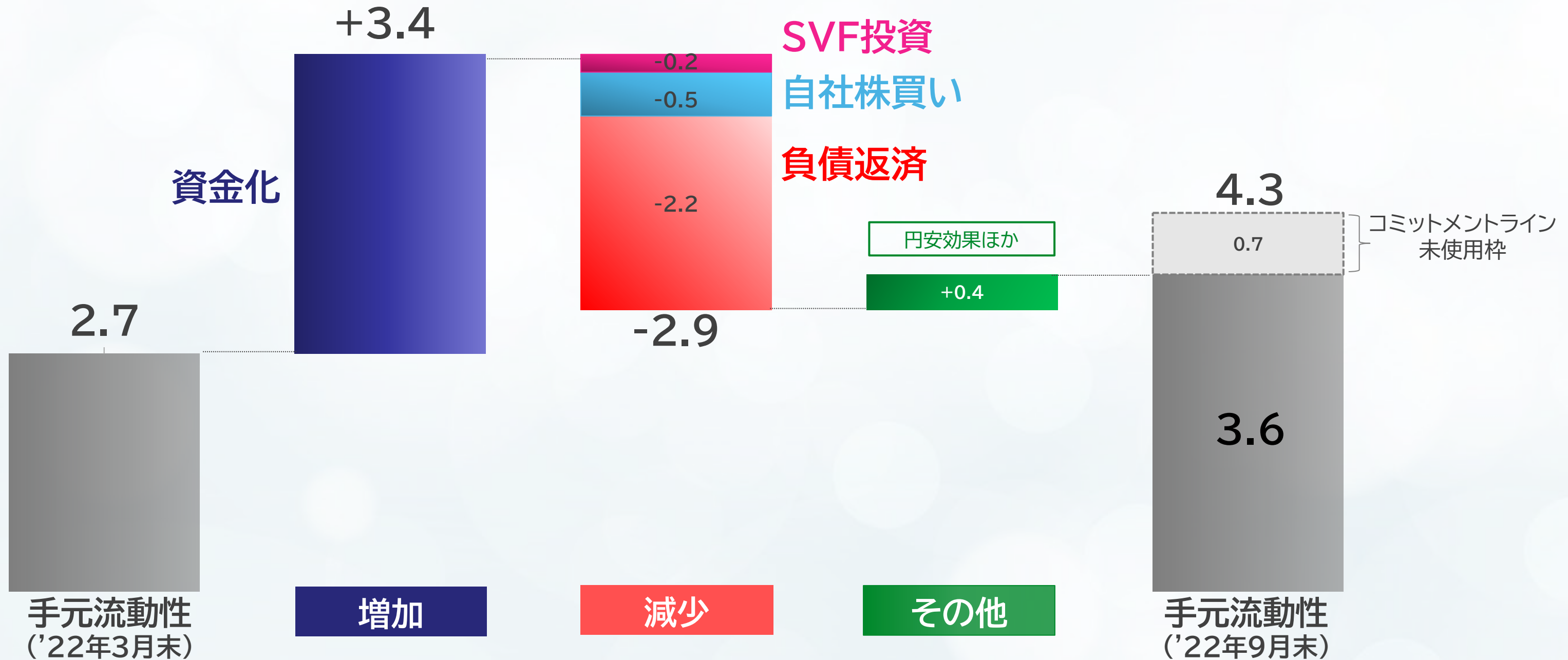
アセットバック・ファイナンス除く



**LTVは  
低位を維持**

# 資金化と資本配分('22年度上期)

(兆円)



各期の平均レート等により円換算  
 手元流動性:現金及び現金同等物+流動資産に含まれる短期投資+コミットメントライン未使用枠。SBG単体ベース(SB Northstarを除く)  
 資金化:SVF1からの分配(+ \$1.8B)、SVF2からの分配(+ \$0.5B)、LatAmファンドからの分配(+ \$0.1B)、SB Northstarからの資金還流(+ \$0.7B)、アリババ株式を利用した株式先渡契約(+ \$18.3B)、アーム株式を利用したアセットバック・ファイナンスによる調達(+ \$1.4B)、Tモバイル株式売却(+ \$2.4B)、SoFi Technologies, Inc.株式売却(+ \$0.7B)  
 SVF投資:SVF1&2およびLatAmファンドへの拠出額合計(- \$1.9B)  
 自社株買い:2021年11月8日取締役会決議に基づく自己株式の取得額(- ¥523.1B)  
 負債返済:SBGコミットメントライン返済(- \$4.5B)、SBGシニア・ローン返済(- ¥325.2B)、SBG社債償還による支出(- ¥142.5B)、アリババ株式を利用したマージン・ローン返済(- \$6.0B)、Tモバイル株式を利用したマージン・ローン返済(- \$2.1B)、アーム株式を利用したアセットバック・ファイナンス返済(- \$0.9B)

# 手元流動性

(兆円)

4.3

0.7

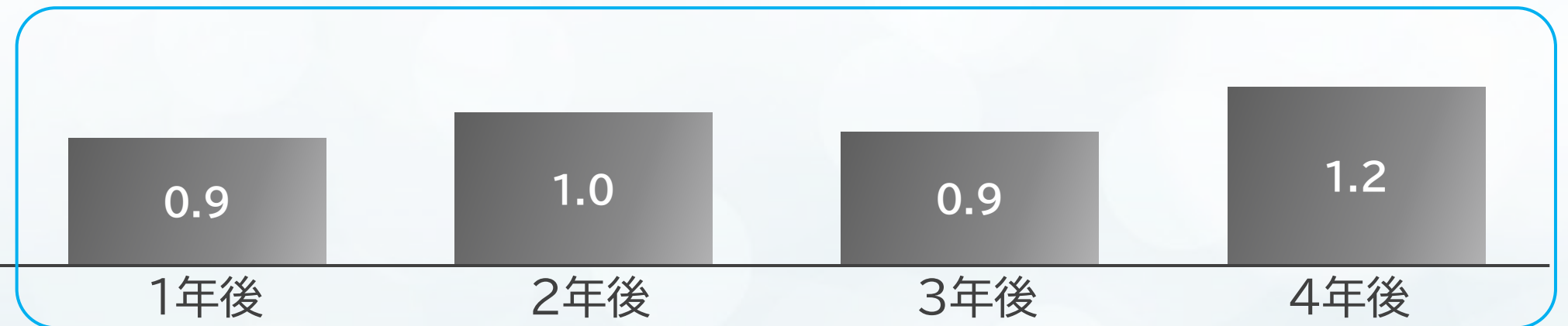
コミットメントライン未使用枠

3.6

'22年9月末



今後4年間  
4.1兆円



手元流動性

社債償還予定

手元流動性: 現金及び現金同等物 + 流動資産に含まれる短期投資 + コミットメントライン未使用枠。SBG単体ベース(SB Northstarを除く)  
社債償還金額はバイバックにより取得した社債を除く  
'22年9月末時点のコミットメントライン総額7,017億円は全額未使用



# SBG単体負債の削減（'22年度上期+10月社債買入れ）

社債の償還・買入れ  
（10月に実施した社債の買入れを含む）

総額 4,565 億円

マージン・ローンの返済

総額 1兆78 億円

銀行借入の返済

総額 8,860 億円

総額  
2.4兆円  
を削減

各四半期の平均レート等により円換算  
社債の償還・買入れ：額面総額ベース。'22年10月に実施した社債の買入れ(\$2,265M)は'22年Q2平均レートにより円換算  
マージン・ローンの返済：'22年Q1に実施したアーム株式を活用したアセットバック・ファイナンスの増額(\$0.5B)を控除後の総額

# 株主還元：自己株式の取得

## 取得枠 1兆円

(’21年11月9日～’22年11月8日まで)



## 全額取得完了 (’22年10月17日)

# 株主還元：自己株式の取得

## 取得枠 4,000億円

('22年8月9日～'23年8月8日まで)



## 全額取得完了 ( '22年11月10日)

# 株主還元：自己株式の取得

(億円) 累計取得額 **5.0**兆円('16年以降)

大規模な  
自己株式取得  
を継続



# 株主還元：自己株式の取得（'19年2月～'22年10月）

	(\$B)
1 Apple	299
2 Alphabet	128
3 Microsoft	92
4 Meta Platforms	83
5 Oracle	75
6 Charter Communications	41
7 Procter & Gamble	31
8 Lowe's	30
9 Intel	30
<b>10 SoftBank Group</b>	<b>28</b>
27 Alibaba Group Holding	14
45 Toyota Motor	10

他のグローバル  
企業に匹敵する  
株主還元

\$2.7B (4,000億円)  
'22年11月10日追加取得完了

米国および日本市場に上場する企業におけるランキング(金融機関を含まない)  
'19年2月～'22年10月：2022年10月17日時点の当該期間における各社開示資料  
および為替レートを基に当社作成  
SoftBank Group \$28bn:'19年2月以降の当社取締役会決議に基づき実施した  
自己株式取得金額合計4兆1,000億円を1米ドル=148.83円で換算して算出

1

会社概要・FY22上期業績

2

「守り」の実行

3

**SoftBank Vision Fund**

4

既存ポートフォリオの状況

5

財務戦略

6

サステナビリティ

# 投資損益 (四半期)

USDベース  
(SVF1+SVF2+LatAm)

(\$M)



投資損益(四半期): 当社連結財務諸表の作成における為替換算前のSVF投資損益の四半期計上額  
(デリバティブ関連損益含む、外部投資家持分および税金等控除前)

# 投資損益 (累計)

USDベース  
(SVF1+SVF2+LatAm)

(\$M)

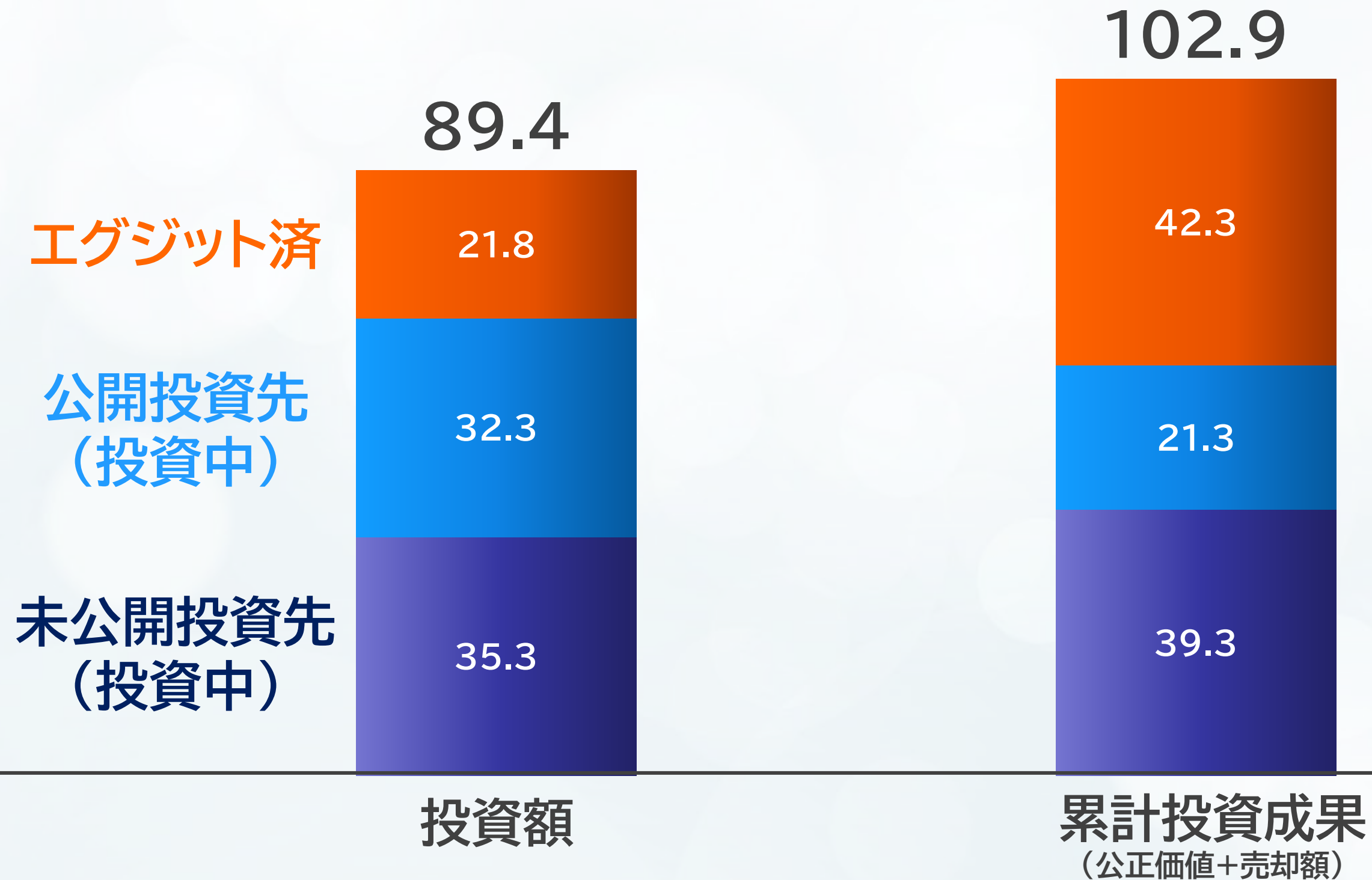


投資損益(累計): 当社連結財務諸表の作成における為替換算前のSVF投資損益のFY17Q1からの累計上額  
(デリバティブ関連損益含む、外部投資家持分および税金等控除前)



# SVF1 累計投資成果（'22年9月末時点）

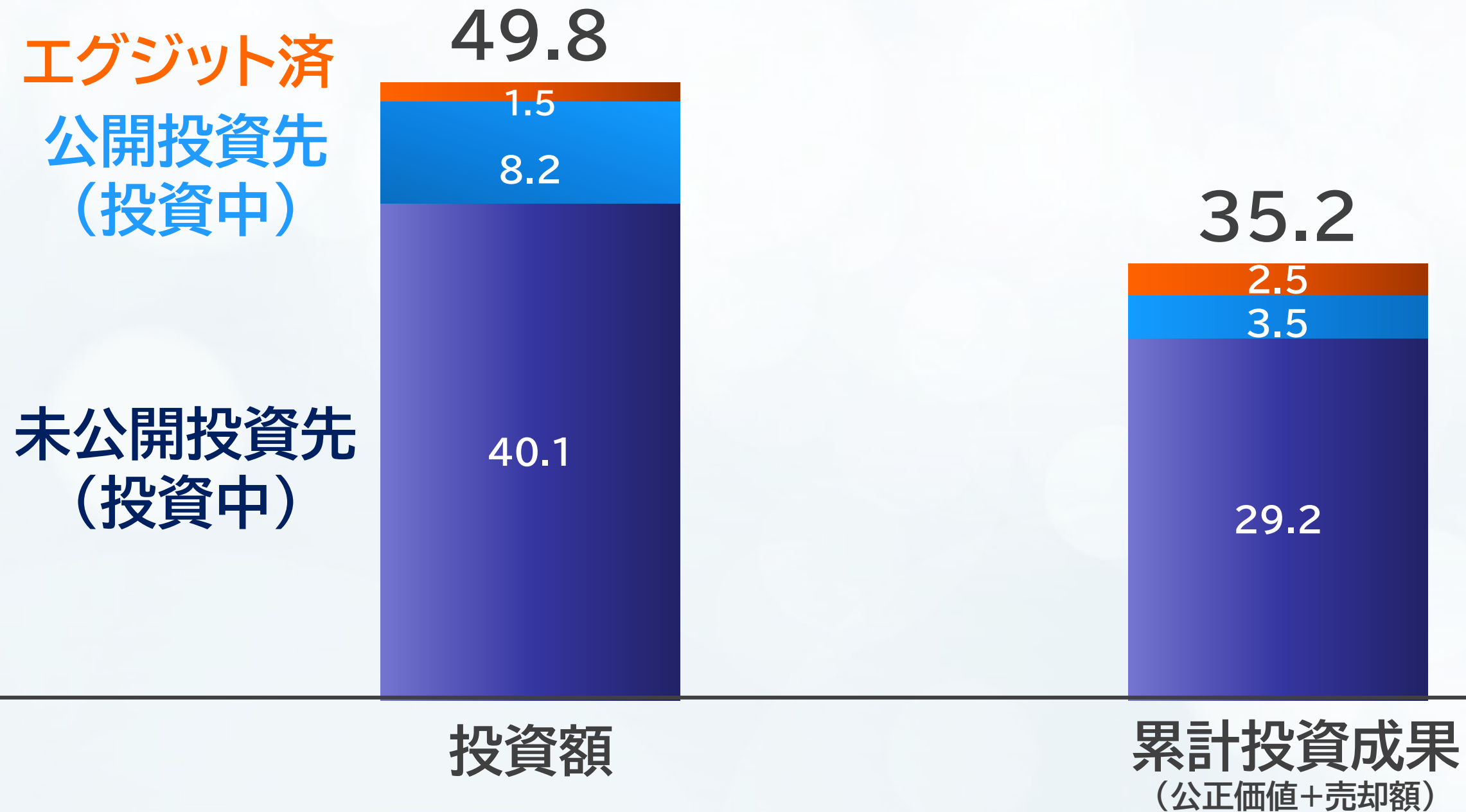
(\$B)



外部投資家持分および税金等の控除前。投資先の公開／未公開の区分は、'22年9月末時点の状態に基づく。  
エグジット済には、株式交換による処分(売却)、投資に係るデリバティブ関連損益(未決済のデリバティブを含む)、投資先からの利息および配当金を含む。公開投資先には店頭市場で取引されている株式への投資を含む。  
当社からSVF1への移管が決定されていたものの実行されなかった投資について、移管の取りやめを決定するまでの期間に発生した未実現評価損益は含めていない。

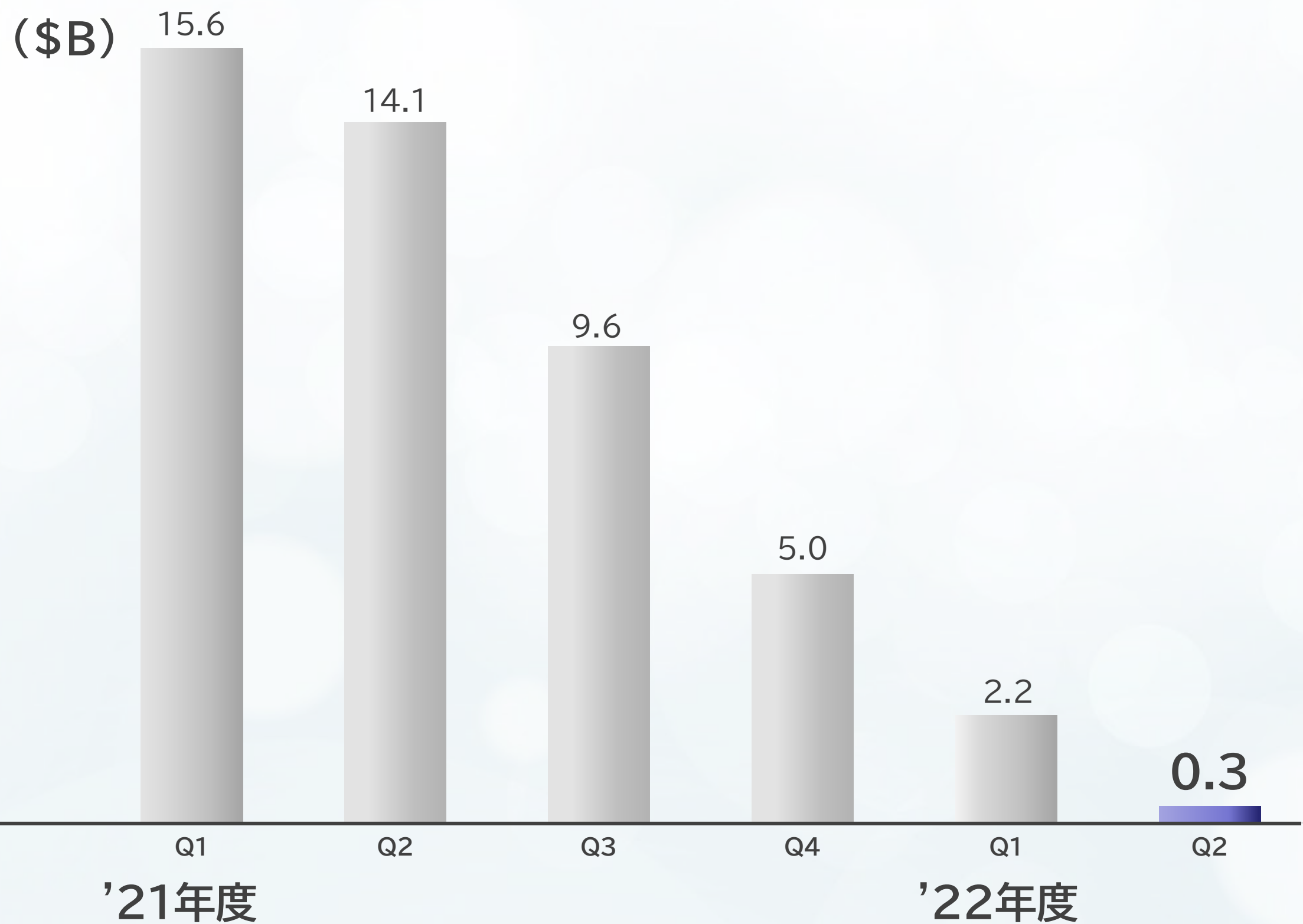
# SVF2 累計投資成果（'22年9月末時点）

(\$B)



税金等の控除前。投資先の公開／未公開の区分は、'22年9月末時点の状態に基づく。  
エグジット済には、投資に係るデリバティブ関連損益(未決済のデリバティブを含む)、投資先からの利息および配当金を含む。公開投資先には店頭市場で取引されている株式への投資を含む。  
SVF2のエグジット前の投資の投資額および公正価値には、投資の取得対価の一部として受領した他会社の非支配持分に係るものを含む。

# 投資額の推移 (SVF1+SVF2)



## 守りを徹底

# IPO、売却・資金化(SVF1+SVF2 '22年度上期)

IPO 3件

goto

DELHIVERY

  
symbotic

売却・資金化 \$5.1B

Uber

 GUARDANT™

 贝壳  
BEIKE

等

1

**組織の効率化**  
(海外プラットフォームの一体化)

2

**投資の厳選**

3

**既存投資先の価値向上**

# 新リーダーシップ



**Alex Clavel**

米国・中南米  
投資チーム統括



**Greg Moon**

アジア・欧州  
投資チーム統括



**Navneet Govil**

管理部門統括

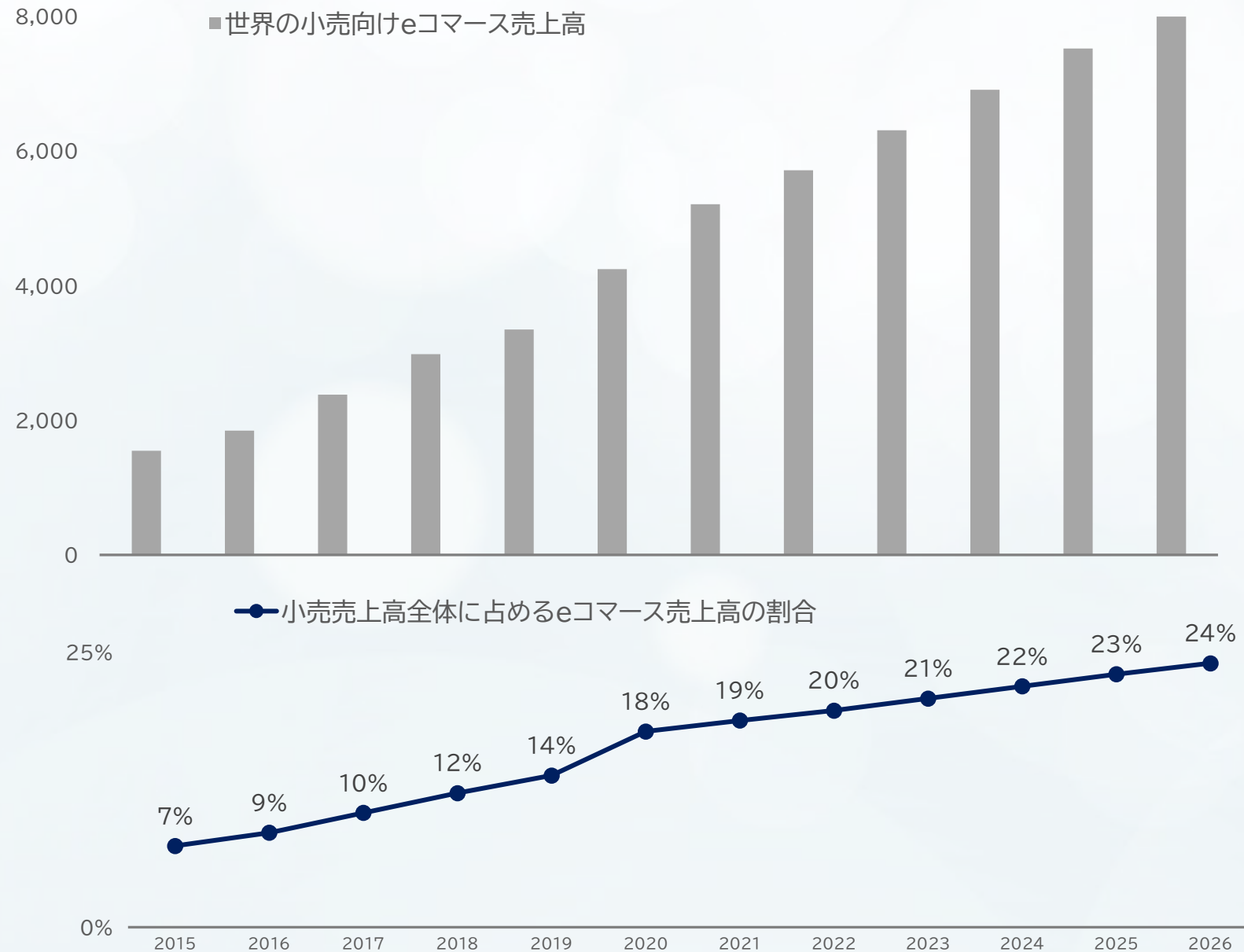
# SoftBank Vision Fund

## 注目セクター

# デジタル・コマースの成長

## 世界のeコマース売上が継続的に拡大

(\$B)



## 投資先 (例)

attentive®

ByteDance

CommercelQ

Fanatics

当スライドに記載の投資先は、あくまで例示であり、SVF1およびSVF2、Latamファンドの投資対象の全てを網羅するものではない。SVF1およびSVF2、Latamファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、特定の投資対象又は有価証券の勧誘として解釈してはならない。過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではない。投資の詳細なリストについては、[visionfund.com/portfolio](https://visionfund.com/portfolio) を参照

(出所) Statista  
'15年から'21年までの世界の小売総売上高に占めるeコマースの割合、および'22年から'26年までの予測



# グローバル・サプライチェーンの再創造

## 倉庫自動化がもたらす大きな成長機会

自動倉庫 (ASRS) 市場のオポチュニティ

自動化未対応  
98%

2%

自動化済

## 投資先 (例)

 AutoStore

 AGILE ROBOTS

 BERKSHIRE  
GREY

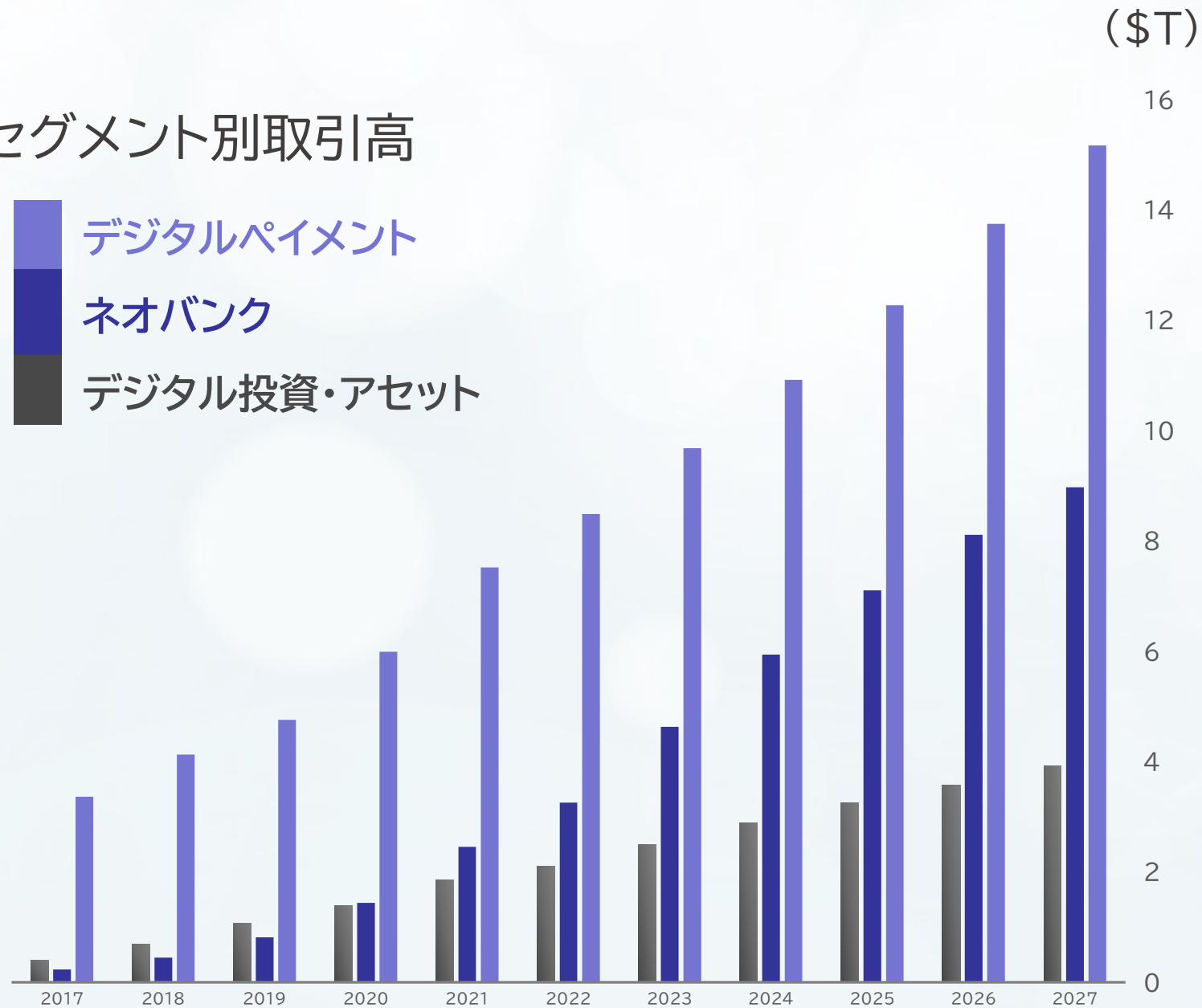
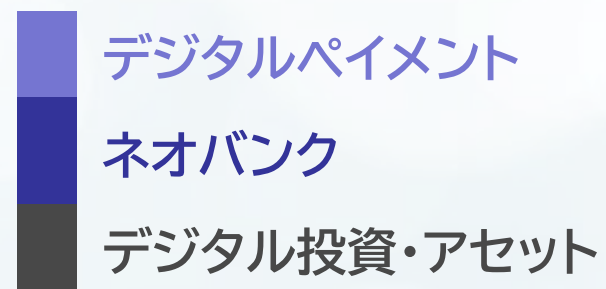
 cargomatic®

当スライドに記載の投資先は、あくまで例示であり、SVF1およびSVF2、Latamファンドの投資対象の全てを網羅するものではない。  
SVF1およびSVF2、Latamファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、特定の投資対象又は有価証券の勧誘として解釈してはならない。  
過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではない。投資の詳細なリストについては、[visionfund.com/portfolio](https://visionfund.com/portfolio) を参照

# 金融サービスへのアクセスをより身近に

## フィンテックは継続的な成長へ

### セグメント別取引高



## 投資先 (例)



当スライドに記載の投資先は、あくまで例示であり、SVF1およびSVF2、Latamファンドの投資対象の全てを網羅するものではない。SVF1およびSVF2、Latamファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、特定の投資対象又は有価証券の勧誘として解釈してはならない。過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではない。投資の詳細なリストについては、[visionfund.com/portfolio](https://visionfund.com/portfolio) を参照

(出所) Statista「フィンテック - 全世界」  
'22年以降の取引高は予想値

# 人材市場のニュー・フロンティア

## 歴史的に高水準の求人数



## 投資先（例）



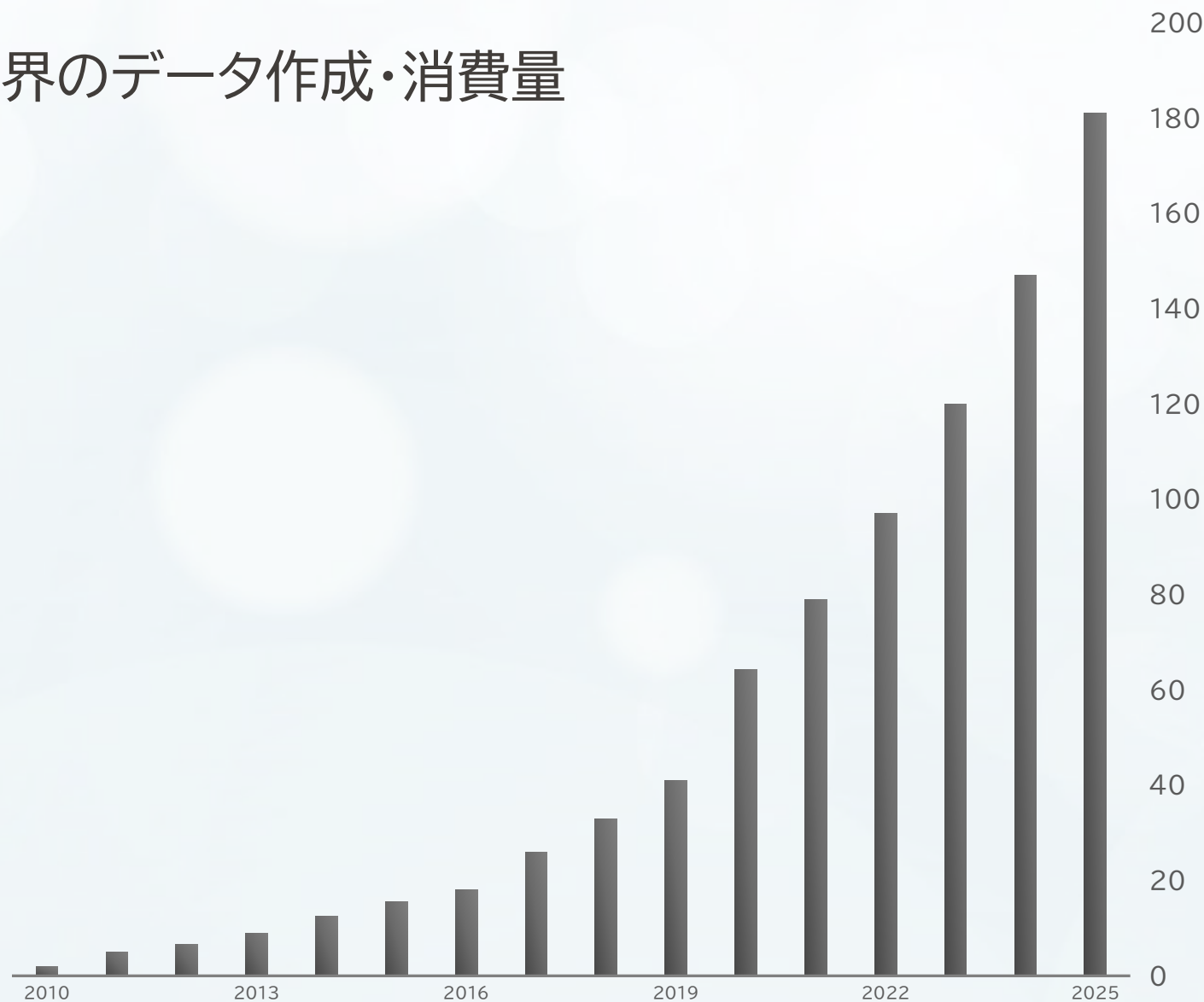
当スライドに記載の投資先は、あくまで例示であり、SVF1およびSVF2、Latamファンドの投資対象の全てを網羅するものではない。SVF1およびSVF2、Latamファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、特定の投資対象又は有価証券の勧誘として解釈してはならない。過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではない。投資の詳細なリストについては、[visionfund.com/portfolio](https://visionfund.com/portfolio) を参照

# 世界のデータを管理、分析、保護

## 今後さらなる増加が予測される 全世界のデータ量

(Zettabytes)

世界のデータ作成・消費量



当スライドに記載の投資先は、あくまで例示であり、SVF1およびSVF2、Latamファンドの投資対象の全てを網羅するものではない。SVF1およびSVF2、Latamファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、特定の投資対象又は有価証券の勧誘として解釈してはならない。過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではない。投資の詳細なリストについては、[visionfund.com/portfolio](https://visionfund.com/portfolio) を参照

## 投資先（例）



(出所) Statista  
世界のデータ作成・消費量: '10年から'20年までの全世界におけるデータ/情報の作成、取得、コピー、消費の量  
および'21年から'25年までの予測値

1

会社概要・FY22上期業績

2

「守り」の実行

3

SoftBank Vision Fund

4

既存ポートフォリオの状況

5

財務戦略

6

サステナビリティ



arm

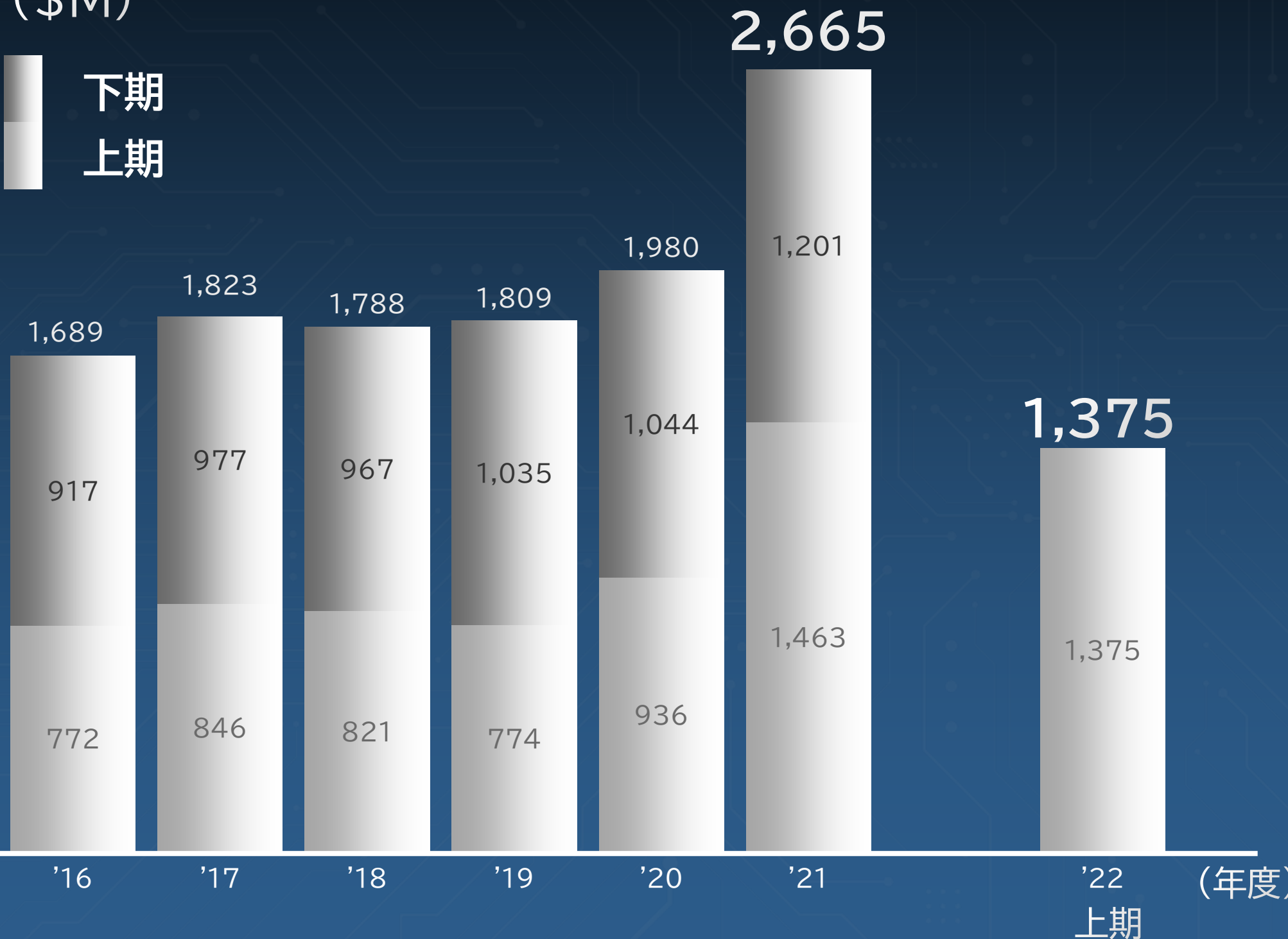
# 売上高

arm

(\$M)

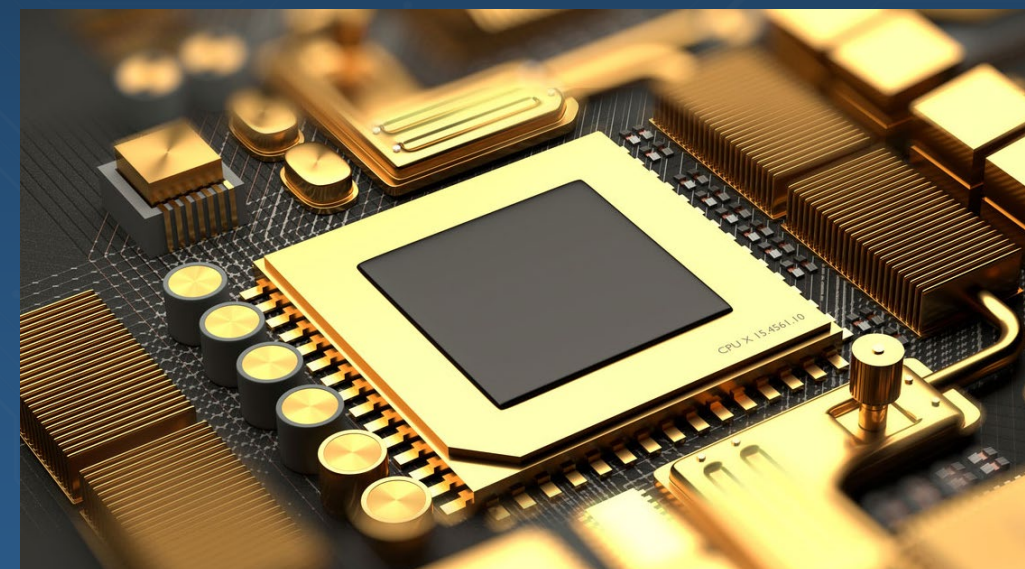


下期  
上期



## 年平均成長率 (直近3年間の上期実績)

# 21%



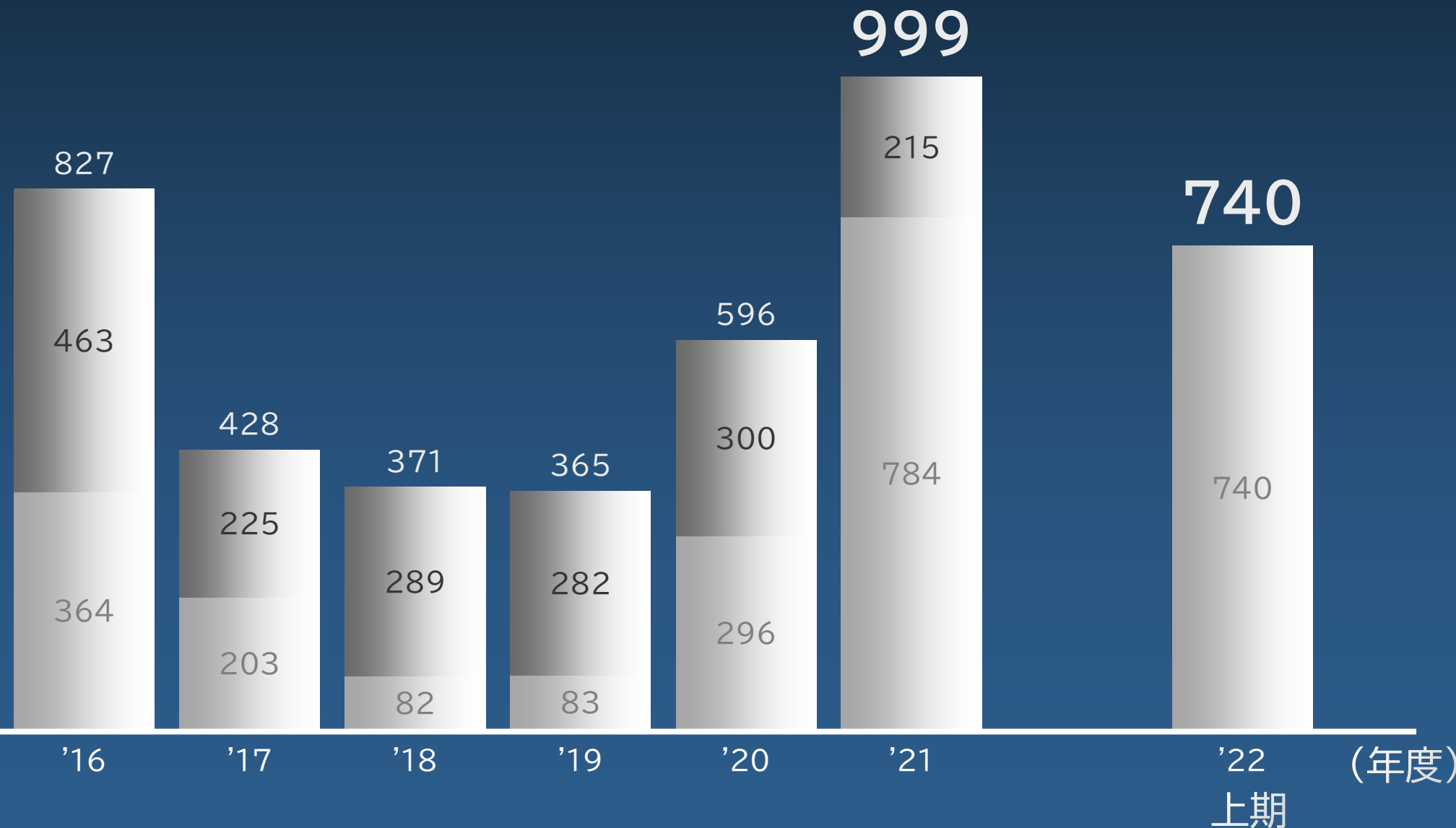
(出所) Arm  
'17年度以降: ISG事業を除く  
ISG事業: Internet-of-Things Services Group; IoTに関連するサービスグループ  
IFRSを基準としていますが、完全に準拠しているとは限りません。  
全ての数字は未監査であり、方向性を示す目的としてのみ情報を提供しています。  
全ての数字は暫定的なものであり、変更になる可能性があります。  
SBG、SVF1、SVF1のジェネラル・パートナー又はSBIAが情報の正確性を保証するものではなく、情報を更新する義務を負いません。

# 調整後EBITDA



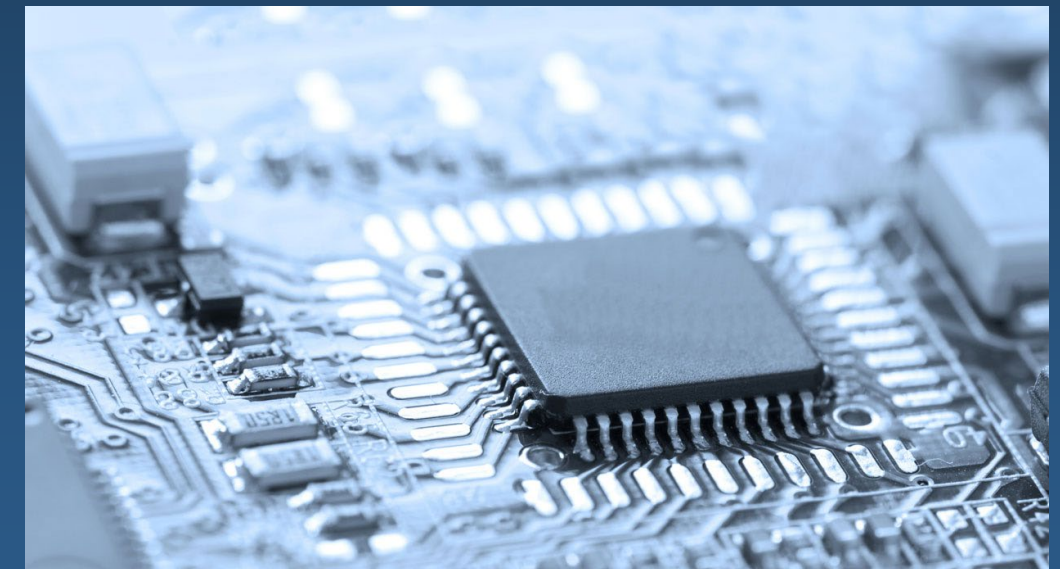
(\$M)

下期  
上期



## 年平均成長率 (直近3年間の上期実績)

# 107%



(出所) Arm  
 '18年度~'19年度: ISG事業に係る直接費用を除く  
 '20年度~'21年度: ISG事業に係る直接費用及びISG事業に関連する本社費用を除く  
 ISG事業: Internet-of-Things Services Group; IoTに関連するサービスグループ  
 IFRSを基準としていますが、完全に準拠しているとは限りません。  
 全ての数字は未監査であり、方向性を示す目的としてのみ情報を提供しています。  
 全ての数字は暫定的なものであり、変更になる可能性があります。  
 SBG、SVF1、SVF1のジェネラル・パートナー又はSBIAが情報の正確性を保証するものではなく、情報を更新する義務を負いません。



## モバイル



95%

## IoT



63%

## 自動車



24%

## クラウド



5%

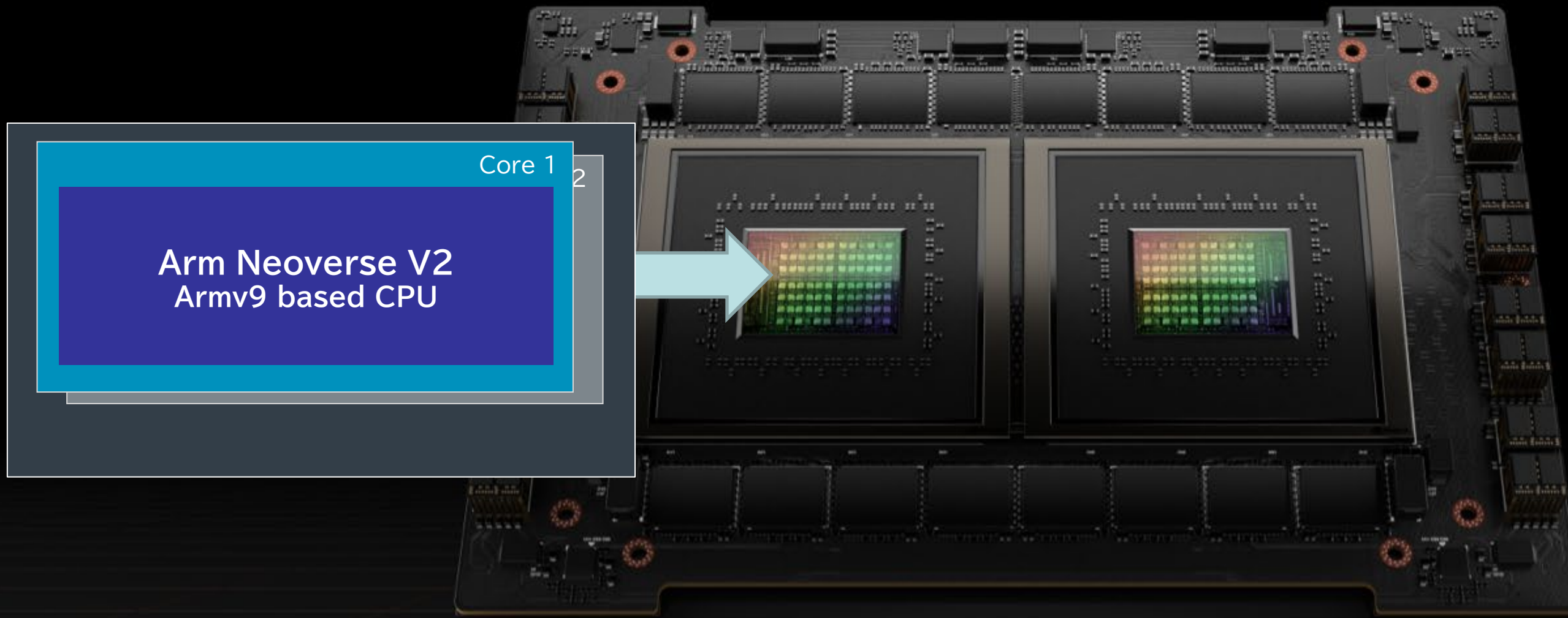
# 成長産業のキープレイヤーに

モバイル: スマートフォンとタブレットのアプリケーションプロセッサにおけるマーケットシェア(数量ベース)、IoT: 産業向け・IoT製品向けの組込型チップ及びIoTチップにおけるマーケットシェア(数量ベース)、自動車: プロセッサを搭載した自動車向けチップにおけるマーケットシェア(数量ベース)、クラウド: クラウド事業者のサーバにおけるマーケットシェア(数量ベース)、各'21年の年間マーケットシェア、(出所) Armによる推定('22年4月提供)  
当スライドは例示のみを目的として提供しており、Armから提供された情報に基づいて作成しています。  
SBG、SVF1、SVF1のジェネラル・パートナー又はSBIAが情報の正確性を保証するものではなく、情報を更新する義務を負いません。

# Arm Neoverse V2



## Arm史上最高のパフォーマンスを実現するプロセッサ



NVIDIA が Grace CPU Superchip を発表  
Arm Neoverse V2 プロセッサ2基を搭載

# 新たなマネジメントの就任

arm

新任取締役

カレン・ダイクストラ

VMware, Inc., Gartner Inc.  
取締役 (現任)

AOLの財務・管理責任者や、  
Plainfield Asset Management  
のパートナーを歴任

新任取締役

ジェフ・サイン

The Raine Group 共同創業者 兼  
パートナー (現任)

モルガン・スタンレーやUBSにて  
投資銀行業務に従事、その後 The  
Raine Groupを創業

新任取締役

トニー・ファデル

ハイテク新興企業を支援する投資・  
アドバイザー企業 Build  
Collective 代表 (現任)

AppleでiPodとiPhoneの開発を  
リード

新任CFO

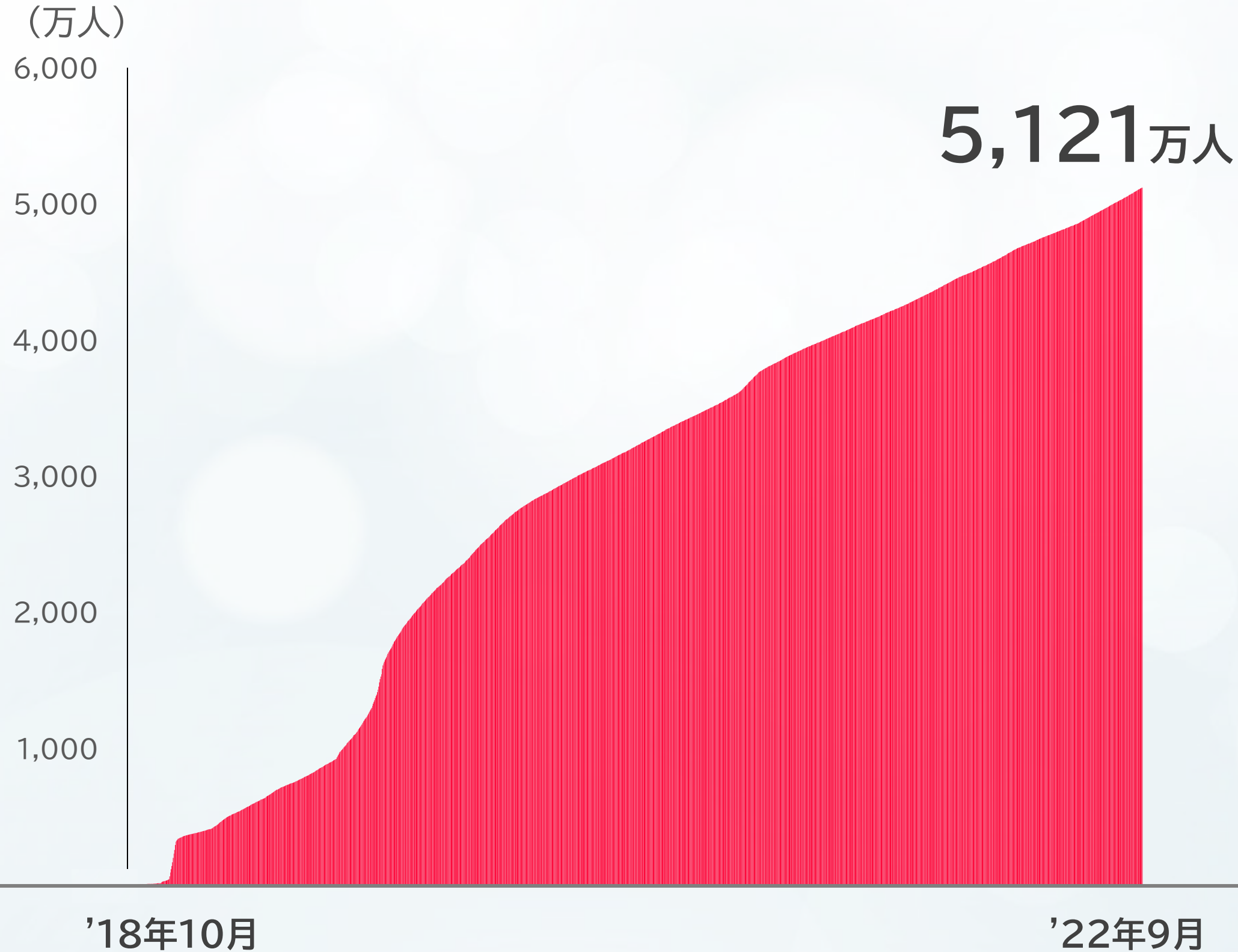
ジェイソン・チャイルド

Coupang Inc. 取締役 (現任)

Splunkのシニア・バイスプレジデント  
兼 CFO、Opendoorや Amazon  
International のCFOを歴任



# 登録ユーザー数

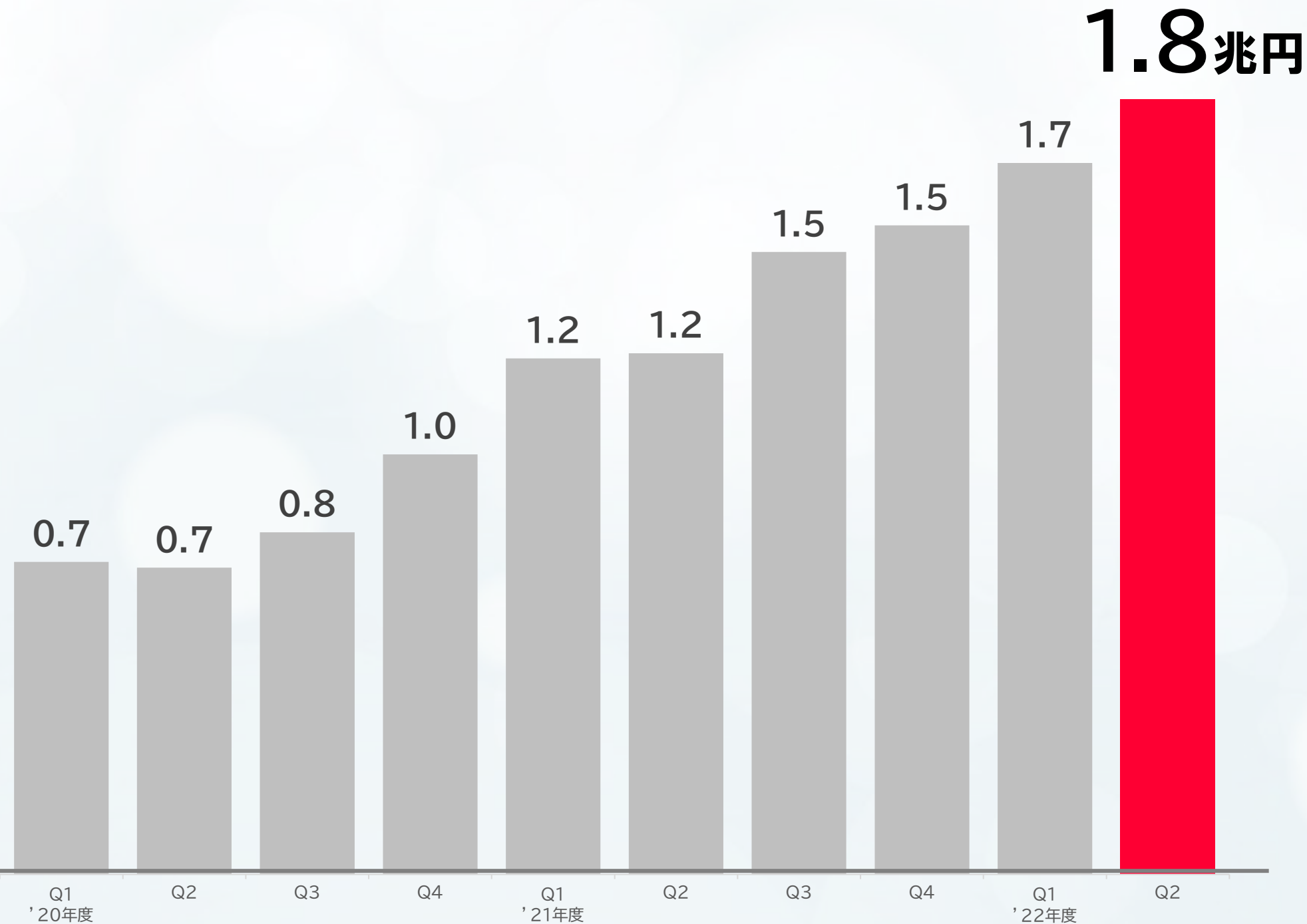


**5,100万人突破**  
(’22年9月24日時点)



# 決済取扱高

(兆円)



## 着実に拡大



(出所) PayPay株式会社  
決済取扱高:ユーザー間での「PayPay残高」の「送る・受け取る」機能の利用は含まない。  
'21年度Q4以降は「Alipay」、「LINE Pay」等経由の決済を含む。  
'22年2月より提供開始した「PayPayあと払い」による決済取扱高を含む。

国内QRコード決済  
市場シェア



第1位



最もダウンロード  
されたアプリ



第1位

利用者数が多い  
アプリ



第2位

TAM  
約**250**兆円

4.9  
兆円

PayPay GMV  
(CY2021)

PayPayカードとの  
連携・シナジー

金融事業の拡大

加盟店事業の拡大

更なる価値向上を  
目指す



1

会社概要・FY22上期業績

2

「守り」の実行

3

SoftBank Vision Fund

4

既存ポートフォリオの状況

5

**財務戦略**

6

サステナビリティ

①財務方針の堅持

②あらゆる変化に  
対応できる  
柔軟かつ機動的な  
財務運営

## 財務方針の堅持

1. 通常時 **LTV25%未満** で運用（異常時でも上限35%）

2. 少なくとも **2年分の社債償還資金** を保持

3. SVFや子会社から **継続的な配当収入** を確保

1

会社概要・FY22上期業績

2

「守り」の実行

3

SoftBank Vision Fund

4

既存ポートフォリオの状況

5

財務戦略

6

サステナビリティ

# 経営理念とサステナビリティ

## 情報革命で人々を幸せに

経営理念そのものに  
サステナビリティへの想い

IT、AIへの投資を通じて  
地球規模の課題解決に貢献



# 投資を通じた課題解決

様々な投資先が、気候変動、資源循環、生産性向上、教育や金融へのアクセスの改善など環境・社会課題の解決に取り組む



※上記は環境・社会課題の解決に貢献する投資先の一部です

# 温室効果ガス削減にむけて

## グループ目標



2030年度までにカーボンニュートラル達成

## 2021年度進捗

ソフトバンクグループ

カーボンニュートラル達成

アーム

自社使用電力の  
**98%**再エネ化

ソフトバンク

基地局使用電力の  
**53.5%**再エネ化

ヤフー

自社使用エネルギーの  
**59%**再エネ化

# 多様性への取り組み

2021年度実績

ソフトバンクグループ



女性社員比率 **44%**

女性管理職比率 **22%**

ソフトバンク

女性管理職比率 目標設定

2030年度までに **15%**

2035年度までに **20%**

SBオポチュニティファンド

米国のマイノリティ起業家への

投資実績 **57件**

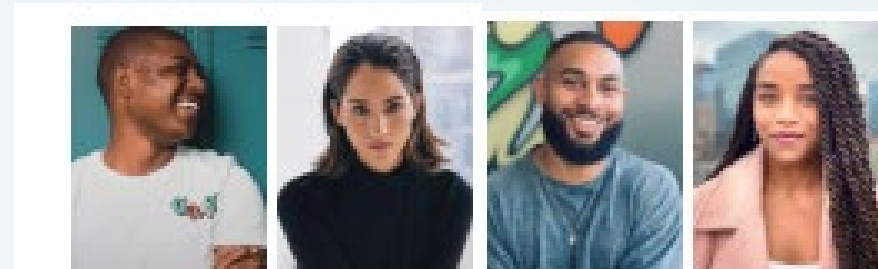
**7,500万米ドル**

SoftBank Group International

新規採用者

女性比率 **51%**

人種的マイノリティ比率 **55%**





# ガバナンスへの取り組み

さまざまな領域の知見を持つ多様性のある経営層

社外取締役比率 **56%**

社外取締役比率が  
過半数の企業は **12%**



代表取締役  
会長兼社長執行役員

孫 正義



取締役  
専務執行役員  
CFO 兼 CISO

後藤 芳光



取締役  
ソフトバンク(株)  
代表取締役会長

宮内 謙



取締役  
Zホールディングス(株)  
代表取締役社長  
Co-CEO

川邊 健太郎



社外取締役  
独立役員  
三井物産(株)顧問

飯島 彰己



社外取締役  
独立役員  
東京大学大学院教授

松尾 豊



社外取締役  
独立役員  
(株)コーエーテクモ  
ホールディングス代  
表取締役会長

襟川 恵子



社外取締役  
Morrison &  
Foerster LLP  
Board Director

ケン・シーゲル



社外取締役  
独立役員  
DCM Ventures  
Co-Founder and  
General Partner

デビット・チャオ

情報革命で人々を幸せに



弊社IRサイト : <https://group.softbank/ir>

